

研究課題 (テーマ)		富山県における迅速な災害復興を目指した災害廃棄物処理の最適化	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	環境工学科	講師	佐伯 孝
	環境工学科 環境工学科	准教授 講師	手計 太一 古谷 元
研究結果の概要			
<p>地震では、東日本大震災（2011年）、中越沖地震（2007年）、能登半島地震（2007年）、水害では、関東・東北豪雨（2016年）、黒部川流域での集中豪雨（1969年）土砂災害では、広島市土砂災害（2014年）、大島土砂災害（2013年）、魚津市土砂災害（2014年）による土砂や災害廃棄物対応について調査を行い情報の整理を行った。</p> <p>本研究において、地震時に発生する災害廃棄物は津波の有無において大きく量や組成が変動することがわかった。（図1参照）小規模な水害や土砂災害時における災害廃棄物の対応の記録が残されておらず、詳細を把握することが困難であることがわかった。</p> <p>本研究において得られた災害廃棄物に関する情報は、自然災害発生時において迅速な復興を目指す災害廃棄物処理計画の策定時に重要な情報である。本環境学科の教育研究上の目的である「循環型社会の構築」を推進する上で、非常に重要な研究であるため、今後も災害廃棄物に関する研究は継続する予定である。</p>			
<p>図1 住家被害と災害廃棄物量</p>			
今後の展開			
<p>昨年度の研究において、地震、水害、土砂災害の発生時における被害状況と災害廃棄物の発生量や災害廃棄物の組成が明らかとなったことから、それらの情報を基に、富山県において自然災害が発生した場合のシナリオにおいて、各シナリオでどの程度の災害廃棄物の発生量の算出を行う。さらには、災害廃棄物の発生量から必要な仮置場の面積や広域処理の必要性などの検討を行うことができる。</p>			